

授業科目名[英語名]							
食料と農の人間教育[Human Education of the Food and Agriculture]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
野村 卓[099-285-7740]							
E-Mail	nomura@life.kagoshima-u.ac.jp		受講対象	全			
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 2分野	開講期	後期火曜3	単位等	2
共同担当教員名							
教育目標のキーワード							
コミュニケーション能力と相互理解/専門基礎能力							
学習目標(学生の達成 目標)							
現代社会を揺るがせている食や農に関する安全・安心の課題を、単に食や農の知識習得によって解決されるものとして捉えず、食や農に携わる多様な人間の関係性と知識の情報発信の仕方、地域の再構築の問題として捉え直し、これを人間の成長をとおして見定めることのできる能力と力量の向上をめざす							
授業概要(目的・内容・方法)							
食や農に関する知識の習得のみならず、知識の情報発信まで展開できる人材を養成するために、地球の歴史における人類と農耕の姿を外観し、人間の自然性・社会性・身体の関係を読み解いていく。更に現代の社会環境下に対応した青少年の生活スタイルをとおして、人間の成長と食・農のあり方を見定めていく。このとき、講師からの知識のinputをとおしてよりも、ワークショップやグループディスカッション、ディベートの手法を活用しながら、自らの主体性を振り返りながら、個人・家庭・地域のあり方、再生について議論を深めていく。このとき、青年層だけでなく、県下の社会人の聴講をとおして、多世代の意見交換をとおして世代連携も模索していく。							
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)							
1 10/6(火) 講義概要説明(発想法、創造法、ディベート等の手法説明)							
2 10/13(火) 地球環境における人間圏の形成と自然圏との向き合い(自然概念再考)							
3 10/20(火) 農耕の歴史と農業の近代化、そして現在の食料事情(食料自給率と人口問題)							
4 10/27(火) 教育における食と農、そして地域との関わりーその1 (学校教育における食農教育、食育、食農育の展開過程から)							
5 11/10(火) 教育における食と農、そして地域との関わりーその2 (社会教育における青少年自立支援と身体、労働の課題)							
6 11/24(火) 地域機能と伝統食、伝統農法の姿(大人は何を失ってきたのか?)							
7 12/1(火) 食の安全・安心を脅かす社会とは何か(行政や食品産業と消費者の向き合いの時代に)							
8 12/8(火) 現代青少年食生活実態の検討ーその1 (高校生の生活実態を中心に分析、グループディスカッション)							
9 12/15(火) 現代青少年食生活実態の検討ーその2 (高校生の生活実態を中心に分析、グループディスカッション及び発表)							
10 1/12(火) 現代社会で食と農の連結を考えるーその1(食、農、食農のワークショップ)							
11 1/19(火) 現代社会で食と農の連結を考えるーその2(食、農、食農のワークショップ及び発表)							
12 1/26(火) これからの食と農の課題ーその1(食と農の連結と地域再生をめざして、ディベート)							
13 2/2(火) これからの食と農の課題ーその2(食と農の連結と地域再生をめざして、ディベート)							
14 2/9(火) 食と農の思想と地域再生(人間の本質としての共感・共有・共同と愛郷・愛国の狭間)							
15 2/16(火) これからの食と農の実践の可能性(自分たちは何ができるのか)							
受講要件	食や農の領域で食育・食農の実践を行っている人、これらの領域に興味・関心のある人						
評価基準および方法	2/3以上の出席をとおして、S・A・B・C・Dの五段階評価 講師の評価とともに自己評価を行う						
教科書	講義時に資料配布	参考書	『食農で教育再生』農山漁村文化協会				
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	事前連絡によって、野村研究室で随時行う(社会人向けの自主的な食育ゼミナールに参加可能)		その他				